

山陰地域の気象災害データベースについて

本データベースは山陰地域(島根県・鳥取県)に被害をもたらした気象災害について、その起日、被害状況などをできる限り統一的な基準でまとめたものです。使用した資料、データのまとめ方などに関しては以下の説明をお読みください。

■ 資料

本データベースに使用した資料は以下の通りです。

島根県

- ・「災害年報」(島根県総務部, 1975~2008)
- ・「島根県既往の災害並ニ豪雨調」(島根県浜田測候所, 1934)
- ・「島根県歴史大年表」(藤岡大拙監修, 郷土出版社, 2001)
- ・「島根の気象百年」(松江地方気象台・浜田測候所編集, 日本気象協会松江支部, 1993)
- ・「斐伊川史」(長瀬定市編, 斐伊川史刊行会, 1950)
- ・「松江気象30年表」(遠藤二郎編, 松江地方気象台, 1971)
- ・「和訳出雲私史(複版)」(桃好裕, 島根郷土資料刊行会, 1972)

鳥取県

- ・「消防防災年報」(鳥取県, 1983~1989, 1992~2001)
- ・「大正7年鳥取縣下暴風雨報告」(境地方測候所, 1919)
- ・「鳥取県気象災害誌 明治40年~昭和31年(1907~1957)」(鳥取地方気象台編, 鳥取県防災気象連絡会, 1958)
- ・「鳥取県の気象」(鳥取地方気象台編, 鳥取県防災気象連絡会, 1962)
- ・「鳥取県防災気象要覧」(鳥取地方気象台編, 日本気象協会鳥取支部, 1967)
- ・「鳥取大災害史: 水害・震災・大火からの復興」(横山展宏編, 鳥取市文化財団, 2012)
- ・「鳥取の災害ー水害ー」(芦村登志雄, 鳥取市社会教育事業団, 1992)
- ・「百式拾年のあゆみ 境測候所」(鳥取地方気象台編, 鳥取地方気象台, 2003)
- ・「自寛永七年至天保十二年 二百十二年間に於ける鳥取県地方の災害其他気象関係記録」(鳥取縣境地方測候所, 1937)

■ データベース項目

本データベースで収集・集計した項目は以下の通りです。

- ・起日: 災害の発生日あるいは災害期間の開始日と終了日
空欄は起日・期間の不明な災害です。その他, 季節あるいは上中下旬レベルまでしか明らかでない事例も多くあります。
日付は旧暦(陰暦)が使われていた明治5年以前についても陽暦で表示しています。
- ・種類: 災害の種類
詳しくは下の説明をご覧ください。
- ・資料の表現: 使用した資料での災害分類
極めて多くの災害種が書かれている場合一部省略しました。
- ・気象原因: 災害を引き起こした気象現象

- ・発生地域：災害の発生地域

空欄のものは県下全域に被害が及んだ災害です。ただし、古い時代の災害では被害地域が明瞭でなく空欄になっているものもあります。

江戸期以前は旧国表記を基本とし、郡、藩、村名が記載されている場合はそれを表記しました。

明治以後は県東部、西部、山間部などの表現を原則としました。近年の災害で被害市町村が限定的(3自治体以下)な場合はその名称を記載しました。

- ・被害：数量的な被害状況

古い災害は資料の精度から細かな数値を議論することに意味がないと考え、数値はすべて有効数字3桁に修正しました。

単位は資料に記載されているものです。

集計項目は以下の通りです。

- ・死者行方不明者数

負傷者数は除いています。

単位は人、名ですが、すべて省略しています。

- ・建物

住家：民家、農家、商家、武家屋敷など人が居住するための建物で、全半壊、床上・床下浸水したものです。一部損壊は含めていません。古い資料では住家・非住家の区別や半壊と一部損壊の区別が曖昧なため、非住家被害、小規模被害も含まれていると考えられます。

非住家：小屋、納屋、城、神社、寺院などの被害数で、上と同様の被害内容です。非住家の場合、全半壊・一部損壊の別、浸水状況などが不明な事例が多くあります。

- ・農業

農地：流失、崩壊、浸水・冠水した農地の面積や箇所数です。

作物：作物の減収量、被害面積などで、主として米の被害ですが、桑畑や野菜など場合もあります。

施設：温室、用水施設、農道などの被害です。

- ・土木

一般的には道路、橋梁、河川堤防、山崖崩れに分けますが、全体的な統一をするためには大括りにする必要があります。ここでは、それらに港湾、海岸、鉄道などの被害も合わせ、その合計件数と規模を示しました。

- ・船舶

沈没、座礁、遭難、損壊した船舶数です。船の規模、漁船・商船、帆船・動力船などの区別は行っていません。

- ・被害金額

- ・備考：著名災害の名称、資料の表現、その他数量化しなかった被害種類

- ・主な資料：起日、被害状況などで最優先した資料

■ 災害の種類

古い資料では災害は様々に表現されています。例えば、洪水に関係するものでも、洪水、出水、大水、増水、氾濫、水害などの表現がみられます。ここでは、資料の表現、被害の状況などを参考に、以下のようにまとめました。なお、雷と雹が両方発生したような場合は、主たる被害をもたらした現象を示しています。したがって、災害の種類をより正確に判断するには資料の表現ならびに備考を参考にしてください。

大火、病虫害、凶作などは人間の過失、農業技術の未熟さなどが原因で、気象現象により直接引き起こされる災害ではありませんが、古い資料を中心に今回使用した資料には数多く記録されています。このうち、病虫害、凶作は原因となる気象現象が特定されないで除外しました。一方、大火はその発生原因は人為的ですが、被害の拡大には低気圧や台風あるいは季節風など気象現象が関与しています。そのため、本データベースでは焼失戸数 100 戸以上の火災に限り大火として取り上げました。

その他、黄砂、赤潮なども気象に関係する災害として資料中に散見されますが、今回は取り上げていません。

大雨害：大雨に伴う災害で、建物被害を伴わないもの

洪水害：大雨に伴う災害で、建物被害を伴うもの

長雨害：長期の降雨に伴うもの

雹害：降雹によるもの

強風害：強風に伴うもの

風浪害：強風により発生した波浪によって海岸・護岸の崩壊、船舶被害が生じたもの

風水害：大雨と強風両方によるもの

雪害：大雪、雪崩など。初雪など単なる降雪記録は除く

風雪害：降雪と強風によるもの

融雪害：主として融雪による洪水

寒害：冬季の低温によるもの

低温害：暖候期(春～秋)の低温によるもの。冷害を含む

暖冬害：冬季の高温によるもの

高温害：冬季以外の高温暖現象によるもの

霜害：降霜によるもの

干害：長期間の少降水・無降水によるもの

雷害：落雷によるもの

濃霧：霧によるもの

高潮害：高潮現象によるもの

大火：焼失戸数 100 戸以上の火災

■ データの不一致への対応

今回使用した資料、特に古い資料では災害の起日や被害の数値データに不一致がみられました。このような場合、本来は原典(1次資料)にあたり確認するべきですが、それには古文書に関する専門的な知識と膨大な時間を必要とします。そのため、今回は簡便な方法として、上述した資料の中で長期間の記録を有する資料を基本資料として重視し、それと時代の重なる他の資料は補完的に用いることにしました。島根県、鳥取県でそれぞれ基本

とした資料とその期間は下記の通りです。括弧内はデータベースに記載した略称です。

島根県

702(大宝2)年～1932(昭和7)年：島根県既往の災害並に豪雨調(既往の災害)

1933(昭和8)年～1974(昭和49)年：島根の気象百年(気象百年)

1975(昭和50)年～2008(平成20)年：災害年報(災害年報)

補完資料

島根県歴史大年表(歴史大年表)，斐伊川史(斐伊川史)

鳥取県

567(欽明28)年～1631(寛永8)年：鳥取県の気象(鳥取の気象)

1632(寛永9)年～1841(天保12)年：二百十二年間に於ける鳥取県地方の災害其他気象関係記録(地方の災害)

1642(天保13)年～1960(昭和35)年：鳥取県の気象(鳥取の気象)

1961(昭和36)年～1966(昭和41)年：鳥取県防災気象要覧(防災要覧)

1967(昭和42)年～1982(昭和57)年：百式拾年のあゆみ(あゆみ)

1983(昭和58)年～2001(平成13)年：消防防災年報(ただし、1990(平成2)年、1991(平成3)年は百式拾年のあゆみ))(防災年報)

補完資料

鳥取大災害史(大災害史)，大正7年鳥取縣下暴風雨報告(暴風雨報告)，鳥取の災害－水害－(鳥取の災害)，鳥取県気象災害誌明治40年～昭和31年(災害史)